

日本学術会議 地球惑星科学委員会(第 25 期・第 5 回)・  
同委員会地球・惑星圏分科会(第 25 期・第 5 回)合同会議  
議事要旨

1. 日 時 令和 4 年 5 月 23 日(月) 9:00~19:00
2. 会 場 ハイブリッド開催(現地会場および遠隔会議)  
現地会場:幕張メッセ国際会議場(JpGU2022 展示場特設会場 2, 千葉県千葉市美浜区中瀬 2-1)  
遠隔会議:Zoom(主催会場:JpGU2022 オンライン会場および東京大学)
3. 出席者:沖大幹、三枝信子、佐竹健治、田近英一、中村卓司、西弘嗣、春山成子、堀利栄、矢野桂司、東久美子、阿部彩子、石渡明、江守正多、大久保修平、小口高、大久保泰邦、大谷栄治、沖野郷子、奥村晃史、川口慎介、川幡穂高、掛川武、木村学、久家慶子、小嶋智、佐々木晶、佐藤薫、新永浩子、杉田文、鈴木康弘、関華奈子、高薮縁、谷口真人、高橋桂子、張勁、佃栄吉、津田敏隆、中村正人、中村尚、中島映至、中田節也、新野宏、西山忠男、原田尚美、花輪公雄、氷見山幸夫、平田直、日比谷紀之、福田洋一、藤井良一、古屋正人、益田晴恵、村山泰啓、山岡耕春、山形俊男、山岸明彦、渡部潤一、渡邊誠一郎  
欠席者:川村光、小池俊雄、相川佑理、伊藤香織、植松光夫、大路樹生、久保純子、近藤昭彦、斎藤文紀、篠田雅人、寶馨、西田治文、林正彦、長谷部徳子、森田喬、薮田ひかる、山川充夫、八木谷聡
4. 議事次第
  - (1) 前回議事録確認
  - (2) 地球惑星科学分野の大型研究計画ヒアリングについて
  - (3) その他

配付資料

- 資料1 前回議事録(地球惑星科学委員会第 25 期・第 4 回)
- 資料2 前回議事録(地球・惑星圏分科会第 25 期・第 4 回)
- 資料3 2022 年度第1回地球惑星科学分野大型研究計画ヒアリングプログラム
- 資料4 大型研究計画評価・コメント用紙
- 資料5 「未来の学術振興構想(仮称)」の策定方針について(案)
- 資料6 2022 年度第三部予算執行方針(案)
- 資料7 内閣府からの審議依頼(2件)
- 資料8 第 25 期の科学的助言機能・「提言」等の在り方の見直しを受けた、第三部査読等の手順
- 資料9 持続的発展のための国際基礎科学年(2022~2023)

## 5. 議事内容

### (1) 前回議事録確認

田近委員長より前回議事録(資料1、資料2)が紹介された。修正意見はなかった。

### (2) 地球惑星科学分野の大型研究計画ヒアリングについて

- ・中村(卓)委員より、資料3と4に基づき 2022 年度第1回地球惑星科学分野大型研究計画ヒアリングについて説明がなされた。
- ・続いて研究計画ごとに提案者による内容の説明と質疑応答が行われた。ヒアリング参加者は所定の様式に従い評価およびコメントを記載して委員会に提出することとした。
- ・ヒアリング終了後、審議が行われた。田近委員長より、今期は、従来の「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」を策定する代わりに、新たに「未来の学術振興構想」を策定予定であることが資料5に基づき説明された後、意見交換が行われた。
- ・「未来の学術振興構想」は 2022 年 4 月に開催された日本学術会議総会で初めて公式に説明された内容である。
- ・本分野においては、これまで「地球惑星科学分野における科学・夢ロードマップ」を策定・改定してきた経緯があるため、それを活用して「学術振興のビジョン」をまとめる可能性等について議論を行った。

### (3) その他

- ・田近委員長より、資料6に基づき 2022 年度第三部予算執行方針が説明された。旅費・手当ともに十分ではない状況であり、今年度もオンラインを活用して活動していく方針であることが示された。
- ・内閣府からの審議依頼(資料7)は、学術会議と政府との関係改善に向けた話し合いの中で政府から依頼があったものである。学術会議でこれまでに検討してきた内容をベースとしつつ、ワーキンググループを作って準備を進めている状況が説明された。
- ・第 25 期の科学的助言機能としての「提言」等の在り方の見直しを受けた第三部査読等の手順(資料8)については、委員会や分科会から出せるのは原則的には「見解」と「報告」であること、学術会議からの発信にあたって適切な査読プロセスが検討されたこと等が説明された。
- ・持続的発展のための国際基礎科学年(IYBSSD)(2022~2023)については、佐竹委員から資料9に基づき説明がなされた。学術会議は IYBSSD サポート機関として、国内の関連する取組を推進するウェブサイトを開示している([https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/iybssd\\_s/index.html](https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/iybssd_s/index.html))。サイト上では協賛機関の登録を受け付けており、ロゴマーク使用登録を行うと関連するイベントでロゴマークを使用できることが紹介された。関連する学術フォーラム(7月29日ハイブリッド開催等)の開催準備が進んでいることも紹介された。

以上